

TWELVE ANGRY MEN

彼らの手中には少年の運命が、胸中には“死刑”の文字があった。



心を揺さぶる人間ドラマ!息をのむ逆転のサスペンス! **ヘンリー・フォング**が長い映画人生の中で唯一製作を兼ねたこの作品は、もともと劇作家

レジナルド・ローズがテレビのために書いた作品で、1956年に全米でテレビ放映されている。それをユナイテッド映画が買い上げてフォングに主演依頼をしたが、試写室でテレビ版を初めて見て衝撃を受けたフォングは、自ら製作を買って出たという。

監督として5年間に500本のドラマを手掛けていたTVディレクター、シドニー・ルメットに白羽の矢が立てられ、彼にとって初の劇場用長編映画となった。出演者の他の11人は全て二人が直接面接して決定され、ヘンリー・フォングとリー・J・コップ以外は、全て主にテレビとブロードウェイで活躍する性格俳優を揃えている。撮影はわずか17日間で終了したが、リハーサル期間を十分にとって12人がそれぞれの役作りに励み、全編陪審室という密室の中の人間ドラマを、一部のスキもない緊迫感をもって描き切っている。そしてオーヴァー・ラップやフラッシュ・バックなどの手法は一切使わずに、映画の上映時間と物語の進行時間を完全に一致させるという意欲的なルメットの演出と相まって、1957年のベルリン映画祭の最優秀作品賞など多くの賞を受賞している。

【スタッフ】

製作=ヘンリー・フォング/レジナルド・ローズ
監督=シドニー・ルメット
脚本=レジナルド・ローズ
撮影=ボリス・コフマン
美術=ロバート・マーケン
編集=カール・ラーナー
音楽=ケンyon・ホプキンス
1957年/アメリカ/モノクロ/96分
オリオン・ノヴァ・プロダクション制作
配給=シネカノン



【キャスト】

陪審員 8番=ヘンリー・フォング 3番=リー・J・コップ
10番=エド・ベグリー 4番=E・G・マーシャル
7番=ジャック・ウォーデン 1番=マーティン・バルサム
2番=ジョン・フィドラー 5番=ジャック・クルグマン
6番=エドワード・バインズ 9番=ジョセフ・スウィーニー
11番=ジョージ・ヴァスコヴェク
12番=ロバート・ウェバー
裁判官=ルディ・ボンド 衛視=ジェームス・A・ケリー
書記=ビル・ネルソン 被告=ジョン・サヴォカ

【物語】

ニューヨークのある法廷で殺人事件の審理が進んでいる。17才の少年が父親殺しで起訴されたのだ。

その日は夏一番の暑さで12人の陪審員は疲れ切っており早く評決を済ませて家に帰りたいがっていた。最初の評決は11対1で死刑は決定的と見えたが、8番陪審員が無罪を強く主張した。彼は有罪の根拠がいかに偏見と先入観に満ちているかを一つ一つ説いていく。

狭く蒸し暑い陪審員室で、互いに名前も知らない男達は虚飾をはぎ取られ、息詰まるような激論をぶつけ合う。繰り返される評決ごとに無罪が増えていく。そして評決は…

シドニー・ルメット

1924年アメリカ、ペンシルバニア州生まれ。テレビのディレクターとして注目を集め「十二人の怒れる男」(57年)で初めて劇場用映画の監督に抜擢される。この作品はオスカーにもノミネートされ、以後、『セルビコ』(73)『狼たちの午後』(75)『デストラップ・死の罠』(73)『旅立ちの時』(88)『ファミリー・ビジネス』(89)など、リアリズム演出に力量を発揮する社会派の巨匠として多くの作品を発表している。

ヘンリー・フォング

1905年アメリカ、ネブラスカ州生まれ。『運命のそよ風』(35)でデビュー以来常にアメリカの良心を演じ続け、『黄昏』(81)で念願のアカデミー主演男優賞を獲得した。名実ともにアメリカを代表する大スター。舞台でも名優として活躍している。ルメットとは本作品以降も『女優志願』(58)『未知への飛行』(64)で顔を合わせている。他に主な出演作品として『怒りの葡萄』(58)『荒野の決闘』(46)『間違えられた男』(56)『エスピオナージ』(73)など。



幻の名作がニュープリントで蘇る!

ラ・セット・クラシックス vol.1

8/31(土)~9/13(金) モーニングショー AM.10:00

9/14(土)より レイトショー PM.9:00

料金:1500円均一(会員:1300円/シニア:1000円)

Ciné la sept
シネ・ラ・セット

JR有楽町駅中央口すぐ ☎03-3212-3761